

2015じゃつどスタディツアー報告

理事 小幡順子



12月24日（木）

福岡空港集合。

10：30 福岡発ベトナム・ホーチミン、プノンペン
経由ラオス行きベトナム航空利用

19：30 ビエンチャン着

21：00 コプチャイドゥにて夕食

パパイヤサラダを注文する際、「リトルスパイシー
or マイルドスパイシー？」と尋ねられ「リトル」と
答えて出されたものは、「どこがリトルだ〜〜〜
〜！」という辛さ。いきなりラオスにパンチいただき
ました。

12月25日（金）

08：40 ホテル発

09：10 ビエンチャン市内サムケ小学校着

09：25 セレモニー（贈与式）学校施設視察。今回
パソコン1台、書類棚6台を贈与。児童の成績管理
や業務報告などでパソコンを使用したいと熱望さ
れ供与。ラオスの学校でもパソコンを活用する時代
になっているようです。



小学校の近所で機を織っている人がいるとのこと
で案内してもらいました。小さな商店の奥に機を置
き、スカート裾模様を織っていました。聞け
ば、1枚5日ほどで織り、100ドルほどで売れると
いうことです。

学校からの帰り道、村長宅にて行われていたポリ
オワクチン接種会を見学。帖佐徹理事長は、ポリオ
撲滅活動のためラオスに滞在していたこともあり
感慨深げに見学していました。

昼食後、ビエンチャン郊外にあるブッダパークや
国際見本市などが開催されるアイテックなどを視

察。夕食後、ナイトマーケット見学。

12月26日（土）

09：00 通訳の虫明氏と合流。

09：40 ホテル出発 車で一時間半の塩田見学。



ラオスの土壌は地下に塩層があり、井戸を掘っても
塩水が出てくることがあります。そうした塩層の塩
水を汲み上げ、天日による濃縮、釜焚きして出来上
がるラオスの塩は 500g=5000kip=約 70 円です。釜
焚きしていた女性に尋ねたところ、給料は出来高払
いで調子がよければ月 400 ドルほど。公務員の平均
給与が 200 ドル（他各種手当付き）といえますから、
結構いい収入のようです。しかし、体にはきつい仕
事なので、皆がやりたがらない仕事とのことです。

昼食後、市内観光。学生たちは、人生初めてのマ
ッサージに挑戦しました。

12月27日（日）

09：00 Dr.コンサップ、Dr.ソムチット、教育省
OB アジャンと合流して、カムアン県タケクへ向け
て出発。

途中、トイレ休憩に入ったガソリンスタンドには身
障者用トイレが設置してありました。今回の旅で 3
か所の身障者トイレを見ることができました。すべ
て自動ドアではなかったですが、中は広く日本のデ
パートなどにあるトイレと遜色ないものでした。コ
ンビニのような店も併設されており、コーヒーブレ
イクもできます。

15：40 ホテル着

17：00 メコンの夕日見学



12月28日（月）

07：30 タケク市内から南の Houa Na（フアナ）村小学校に向けて出発。

08：40 学校着。贈与式。一昨年既存トイレの水道設備援助、今年度トイレ棟の贈与を行っています。私たちが全校児童で迎えてくれた様子や、贈与式での学校関係者や地元の人たちの様子に、ある学生が「こんなにじゃっどの活動は、地元の人たちから感謝されているのですね」と話していました。

贈与式後、机イスに記名作業。今回 30 セット供与村人が用意してくれた歓迎のパーシー後、昼食

15：00 車で3分ほどの隣地区に移動。

Tung（ツン）村小学校視察。九電生協からの寄付をもとにトイレ改修予定の支援校で、昨年度贈与式を行った学校です。

16：00 タケク市内から 20 kmほど東にあるブッダ洞窟見学。途中までは舗装した道だったのですが、横道へ入ってからは、お尻が 10 cm 浮くガタガタ道を進みました。こんな道の先に観光地があるのだろうかと思っていたら、目的地には一幅の絵のような美しい風景が広がっていました。洞窟のほうも狭い空間ながら、鍾乳洞の見本市のように色々な形の鍾乳石があり見ごたえのあるものでした。絵心のある人ならきっと1週間ほど通ってスケッチし続けるだろうというほど、美しい風景でした。

夕食はシンダートというラオス式焼肉鍋料理。この日 73 歳誕生日を迎えたアジャン氏のお祝いも行いました。

12月29日（火）

08：00 ホテル発

町中の食堂にてサンドイッチとパン・クアンの朝食。学生たちはローカル色いっぱいの朝食に目を白黒

させていました。

09：30 カムアン県病院見学。看護科で勉強中の大学生からの希望で日程に入った病院です。看護学生のユニフォームが2種類ありました。一般の看護師コースと、母子保健専門看護師コース：出産関連の死亡率が高いラオスの現状改善にと Dr.ソムチットの指導で政府が新設。ユニフォームはラオス全国共通であり、実はデザインしたのも Dr.ソムチットとのことです。



県病院は、現在別な場所に新病院を建設中です。会議室に呼ばれ、「今取り組んでいる病院マネジメントについて Dr.コンサップにご教示願いたい。」と病院長によるプレゼンが始まりました。今更ながらじゃっどラオス側の Dr.コンサップ、Dr.ソムチットのラオス国内での医療分野への影響力の大きさが覗えた病院視察でした。

11：00 病院見学後、タケク→ビエンチャン移動。

到着後、通訳虫明氏とお別れ。

12月30日（水）

ビエンチャン最後の早朝。学生たちは前日スーパーで托鉢用にお菓子を購入し、ホテルの近くで托鉢体験。托鉢にきているラオス人の女性に身振り手振りでやり方を習ったと、朝食時興奮して報告してくれました。

09：00 ホテル発

11：50 ビエンチャン→ホーチミンへ

15：05 ホーチミン市内観光。

12月31日（木）

00：35 ホーチミン発

07：20 福岡空港着 博多駅に移動、解散。

「じゃっど」のスタディツアーに参加して ～コープチャイライライ！～

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻 4年 徳田眞子

私は、今回「認定 NPO 法人 じゃっど」の皆さんが、ラオスで小学校の児童や教師を対象に学校保健教育を行っているということを知り、自分が看護師として臨床の場で働く前に、海外での医療の現状を知ることで、保健医療や看護のあり方について考えたいという思いや、他国の文化に触れることで自分の視野を広げ、自国について、また自分自身についても見つめ直すことができればと思ひ、このスタディツアーへの参加を希望させていただきました。もともと途上国のような海外の医療に興味があり、また、小さい頃から看護師になることを夢見ていたということもあって、今回の活動を通して、実際に、海外での医療の現状を自分の目で見て肌で感じる事ができたことは、私にとって、今後の自分の看護師人生にもつながるとも貴重な経験になったと感じています。

主な活動として、小学校を視察し、設置されているトイレの使用状況や衛生環境などを確認すること、学校の先生たちの意見を聞いて教育環境の整備に努めること、机や椅子の寄付などがありました。実際に、支援の対象となっている小学校まで足を運び自ら現状の把握に努めるだけでなく、現地の人々の声に熱心に耳を傾けていたのがとても印象に残っています。また、活動のなかで、現地に住んでいる方々や子どもたちと触れ合う機会もあり、たくさんおもてなしをしていただいたり、みんなで一緒になって踊ったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。しかし、そんななかで、子どもたちの純粋でキラキラした笑顔を見てみると、ふと、生まれた国や貧富の差に関わらず、やはり、医療や教育はみな平等に受けられるべきであると感じたりもしました。

ツアーの期間中には、このような活動以外にも、普段はできないような様々な経験をさせていただき、また、徹先生や理子先生から、「じゃっど」が設立するに至った経緯やこれまでの活動などについてもたくさんお話を聞かせていただきました。そして、子どもたちにいつも笑顔で温かく接している「じゃっど」のみなさんが、これまで 20 年以上も活動を続けてきていらっしゃるのも、何より、「子ども達が健康に育ち、教育を受けられるように」という強い思いが根底にあるからなのだと感じました。そういった「じゃっど」の皆さんの姿を見て、また、自分自身、実際に活動をするなかで、その国に住む人々が本当に必要としているものは何であるのか、そして、そのために私たちは何をすべきなのかということを考え、現地の人々が主体となって取り組めるような支援を行っていくことが大切なのだと感じました。何か一つの活動を成し遂げたり、それを続けていくということはとても難しいことではありますが、ほんの些細なことでも自分にできることはたくさんあると思うので、子どもたちが明るい希望をもちながら、健康に育ち、そして教育を受けることができるよう、今後も何らかの形で自分にできることを自分にできる範囲で続けていけたらと思います。

今回、このような貴重な経験をさせていただいた「じゃっど」の皆さんにはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



ラオスに行って

川内高等学校普通科2年 脇美波

私は学校の勉強よりも海外が好きだ。中学一年のクリスマス。ホームステイでアメリカに行って以来また海外に行く機会があったら是非異文化に触れてみたいと思っていた。

私の通う川内高校は薩摩川内市にあり、「じゃっど」という NPO 法人が、薩摩川内市の学校を対象にスタディツアーへの学生派遣者を募っていると聞いた。何が「じゃっど」なのかもよくわからないままラオスについて全く知らなかったが是非行ってみたいと思い、応募して校内で選抜され晴れて参加することとなった。

申し込みと説明会の時父と一緒に NPO 法人「じゃっど」に出かけた。父と余り年齢の変わらない方々が数十年間も情熱的にラオスの小学生の支援を行っていらっしゃることにまず驚いた。そんなに続く理由は何なのだろう。ラオスにはいったい何があるのだろうか？どんなところなのだろう？疑問と興味が次々とわいてきた。

スーツケース半分開けて支援物資を運ぶこと。夏なので蚊の対策をしていくこと。飲み物食べ物に注意することなど今の私には想像できない。現地の様子に期待は膨らむばかりだった。

福岡から飛行機を乗り継いで蒸し暑いラオスに着いた。日本とはかけ離れた荒れた道路、車とバイクのびっくりするくらい多さ。アメリカとも全く違う異国を感じた。

驚いたのはラオスの人々の素敵な明るさと優しさだった。そう感じたのは挨拶だ。どこに行っても手を胸の前できれいに合わせて、ひざを少し曲げ、相手の目をしっかりと見て「サバイディー」と言ってくれる。その挨拶がとてもうれしかった。

主な目的は小学校の訪問だった。手作りの花の首飾りに私は感動した。とっても嬉しかった。私は空手の演武で日本の一部を紹介した。どう映ったかはわからないが、何となく受けてくれていたと思う。空手を川内高校で学んでいてよかったと思った。

人々の生活は日本と比べると決して豊かとは思えないのだが、人々の表情はそんなことは全く気にすることではなく、みんな生き生きと幸せそうに見える。日本は恵まれていて豊かだが、彼らほど幸せなのだろうか？その辺が良く分からなくなった。

自分が、日本がいかに恵まれた環境でありそれを当たり前のように何の感謝もなく過ごしていたことに気付かされ、恥ずかしく思えた。これもこの機会を作って与えてくださった「じゃっど」のツアーに参加させてもらったお陰だ。これから自分に何ができるか？大それたことは何も言えないが、何不自由なく生活できることに感謝し、今の自分にできることを確実にやっていこうと思う。ありがとうございました。



スタディツアーに参加して

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻 3年 寺田香奈里

ツアーに参加する前、ラオスという国の名前は聞いたことはあるけど、場所もどんな国なのかも全く知らない状態でした。イメージは発展途上の貧しい国。しかしこのイメージはたった1週間のスタディツアーで、“貧しい”という概念から覆されていくことになります。

今回の目的である学校保健の視察。車が多く、キラキラした街並みの首都とはまったく違い、ここが私が最初にイメージしていた“貧しい”ラオスの村だと感じました。学校に着くと、子供たちが校門に並んでおり想像以上の歓迎を受けました。2015年で一番嬉しかった瞬間でした。子供たちの純粋な笑顔、手を胸の前で合掌してちょこんと可愛く膝を曲げて挨拶する姿、カメラを向けると恥ずかしそうにする姿、鮮明に覚えています。目が輝いていて、日本にはない子どもらしさを感じました。学校の先生方をはじめ、村人たちからも歓迎を受けました。初対面である私たち学生に対して、笑顔で近づいてきて、音楽が流れると一緒に踊る姿。そこには、私が最初にイメージしていた“貧しい”という言葉はまったくあてはまりませんでした。確かに経済面では貧しいのかもしれません。しかし日本に勝る心の“豊かさ”がありました。たった1週間のツアーで“貧しい”という言葉の概念まで覆されるとは思っていませんでした。私は日本という恵まれた地で生まれ育ち、それが当たり前になっていることに気づかされました。当たり前から離れ、違う視点から様々なことを見ることで新たな発見があるのだと分かりました。また、じゃっどの方々と現地の人々が関わっている姿をみて、信頼関係が成り立っていると感じました。じゃっどと現地の人々がラオスの衛生面の向上という共通の目標をもっているからこそ、良い関係が築けているのだと感じました。このように発展途上国の向上を目指して活動している団体があること、そこに自分が関わらせていただいたことを誇りに思います。次は今よりももっと成長した姿でラオスに行きたいです。

“いつかすべての子供たちが笑って過ごせる日がきますように

～May all children spend the days with smile～



スタディツアーに参加して

川内商工高等学校商業科3年 野口春加

私は、今回のスタディツアーに参加するまでラオスという国を知りませんでしたが、今回スタディツアーに参加して現地に行き、ラオスの人たちと触れ合っ、ラオスの文化を見てみて、とても魅力的な国だと思いました。特に、私は今回のツアーで同行して下さったじゃっどの皆さんから聞いた、ラオスの歴史やラオスに伝わる神話・伝説がすごく面白いなと思いました。今回のツアーで、自分が本当に興味を持っているのは何なのか気付けたと思います。

また、私は今回のツアーが初めての海外でとても不安でしたが、一緒に行った方々が優しく、海外で気を付けるべき事やラオスのことについて教えて下さったので、とても楽しく過ごせた一週間でした。今回のツアーでは色々新しいことをしましたが、新しいことに挑戦することは、とても楽しくて自分自身のためになったと思います。本当にこのスタディツアーに参加して良かったと思います。

また、今回行けなかったラオスの有名どころにも自分で行ってみたいなと思いました。



2015 ジャッポスタディツアー
平成27年12月24日~31日

